

Chubu Regional Consortium for Advanced Medicine

参加登録

2026

C-CAM シンポジウム

医療イノベーションを創出するアカデミアの役割：シーズ創出から実装までの戦略と現実







- 日時　2026年11月20日(金) 14:30~
- 場所　STATION Ai(鶴舞公園)
- 参加施設(14)

access

愛知医科大学　金沢大学　岐阜大学　名古屋市立大学
名古屋大学　藤田医科大学　三重大学
国立長寿医療研究センター　浜松医科大学
名古屋医療センター　金沢医科大学　富山大学
福井大学　愛知県がんセンター

特別講演



金田 安史
Program Director

国立大学法人大阪大学
感染症総合教育研究拠点
エクゼクティブアドバイザー

略歴

1984年	大阪大学大学院医学研究科博士課程修了・医学博士(大阪大学)
	大阪大学細胞工学センター助手
1988年	文部省長期在外研究員(1990年9月まで)
1992年	大阪大学細胞生体工学センター助教授
1998年	大阪大学医学部教授
1999年	大阪大学大学院医学系研究科教授
2013年	大阪大学大学院医学系研究科長・医学部長(2015年3月まで)
	大阪大学経営協議会委員(2015年3月まで)
2017年	大阪大学大学院医学系研究科長・医学部長、大阪大学総長参与
2019年	大阪大学副学長(2019年8月まで)
	大阪大学理事・副学長(2025年3月まで)
2025年	大阪大学感染症総合教育研究拠点
	エクゼクティブアドバイザー(特任教授　常勤)

スケジュール

時間	1F イベントスペース	1F 手前スペース	3F 大会議室	7F 交流リビング
12:00		ポスター設営		
13:00		ポスター掲載	C-CAM WG1	
14:00	C-CAM 理事長挨拶		C-CAM WG2	
	C-CAM について			
15:00	スタートアップ関連の話題			
	休憩	ポスターコアタイム		
16:00	金田先生特別講演	ポスター掲載		
	研究科長閉会挨拶			
17:00	STATION Ai ツアー			
18:00		ポスター撤収		懇親会
19:00				

江﨑 寛季 先生

名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻
病理病態学 助教

膵がんにおけるがん関連線維芽細胞を標的とした新規抗Meflin抗体薬物複合体の開発

膵がんは豊富な線維性間質を特徴とする予後不良の悪性腫瘍である。HER2を標的とした抗体薬物複合体（ADC）であるTrastuzumab Deruxtecan（T-DXd）は複数の固形がんにおいて高い治療効果を示している。一方、膵がんに対する有効性は限定的である。その要因の一つとして、豊富な腫瘍間質がADCあるいはペイロードの腫瘍組織内への送達を阻害している可能性が考えられる。本研究では膵がんにおけるT-DXd送達の課題克服を目的として、Meflinを標的とする新規ADCの有用性を検討した。Meflinは膵がん間質を構成するがん関連線維芽細胞（CAF）に発現する膜タンパク質である。本研究では、Meflinを標的とし、ベドチンを標識した抗Meflin-ADCを作製しその抗腫瘍効果等を評価した。
抗Meflin-ADCはMeflin陽性CAFへの選択的送達を介してバイスタンダー効果を発揮し、膵がん細胞に対する抗腫瘍活性を示す。膵がん担がんマウスモデルにおいてT-DXdと比較した結果、抗Meflin-ADCはペイロードの腫瘍内送達および抗腫瘍効果の改善を示した。さらに、CAFを標的とする他のADCである抗LRRC15-ADCとの比較検討も実施した。以上より、抗Meflin-ADCはCAFを標的とした新たなADC治療として、膵がんにおける薬物送達の課題を克服し得る有望な治療戦略であることが示唆された。

河野 廉 先生

名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部
イノベーション・アントレプレナーシップ推進室 教授

東海地域の大学イノベーションエコシステム Tongali

東海地域の大学・研究機関が連携して構築してきた大学イノベーションエコシステム「Tongali」についてご紹介します。大学の「知」を起点として、アントレプレナーシップ教育による人材育成から、研究成果を活用した起業・事業化支援まで、大学の枠を越えて展開するプラットフォームの取り組みと、地域におけるスタートアップ創出に向けた活動についてお話しします。

金田 安史 先生

大阪大学感染症総合教育研究拠点
エクゼクティブアドバイザー

**医療イノベーション創出における課題とその克服に向けて
～アカデミアは何をなすべきか～**

アカデミア発の画期的な研究成果を実用化につなげるトランスレーショナルリサーチを推進するため文科省、厚労省、AMEDが橋渡し・臨床加速化プロジェクトを長年にわたって支援を続け基盤整備がなされてきた。しかし将来に向けて革新的な医療イノベーションを創出するためにはまだまだ大きな課題が山積している。まずは研究力の強化から革新的な成果を生み出し、イノベーションを生むシーズとして育成していく必要がある。さらに知財戦略、産学連携の強化、スタートアップの強化に大学を挙げて取り組まねばならない。そのための戦略と今後の課題について紹介し、また将来の大学の使命についても提案する。